



飛鳥中だより

令和7年度 第8号
 令和8年3月19日発行
 北区立飛鳥中学校
 校長 高田 勝喜
 〒114-0014
 北区西ヶ原 3-5-12
 ☎03(3910)6175

飛鳥中学校
 教育目標

誇り高く 志をもち 自他を大切に生きる生徒
 自ら考え 心豊かに たくましく

笑顔と感謝に包まれた卒業式！

本日、3月19日（金）『第77回卒業式』を無事に挙行了いたしました。今年の卒業式では、「最高（幸）の形で卒業生を送り出したい」という思いのもと、在校生・教職員が心を一つにして準備を進めてまいりました。

本校ではこれまでも、無号令での進行やレッドカーペットの導入、式歌合唱の工夫（写真）など、より良い式を目指して毎年改善を重ねてきました。



3月13日 卒業式予行式歌『正解』

今年も、その良き伝統を受け継ぎつつ、新たな工夫を加え、卒業生はもちろん、ご参列

いただいた皆様にとっても心に残る式になったのではないかと感じております。

年度末を迎えるにあたり、保護者、地域の皆様には、この1年間、学校運営への温かいご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。皆様のお力添えがあったからこそ、子どもたちは安心して学び、確かな成長を遂げることができました。ありがとうございました。

令和8年度も、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

裏面には、卒業式での『別れの言葉』等を掲載しております。ご一読いただければ幸いです。

令和8年度 1学期の主な行事予定

月・日	主な行事
4月 6日（月）	令和8年度始業式
7日（火）	第80回入学式
17日（金）	基礎・基本定着度調査（全学年）
18日（土）	土曜授業公開①（全校保護者会）
23日（木）	全国学力学習状況調査（3年生）
24日（金）	新入生を迎える会（特別支援学級）
5月 9日（土）	土曜授業公開②（評価評定・部活動保護者会）
15日（金）	修学旅行（3年生）～17日
30日（土）	運動会（予備日6月3日）
6月19日（金）	宿泊学習（特別支援学級）～20日
22日（月）	1学期中間考査
23日（火）	1学期中間考査
7月 1日（水）	1学期中間考査（3年のみ4教科）
2日（木）	合同進路講演会（特別支援学級）
7日（火）	EC 那須（2年）～9日
18日（土）	岩井臨海学園（1年）～19日
21日（火）	夏季休業日（始）～8月31日 三者面談（始）～7月31日
26日（日）	進路フェア（飛鳥高校にて）
10月17日（土）	土曜授業公開③ 学芸リハーサル
24日（土）	学芸発表会

※行事予定は変更する場合がありますのでご承知おきください。

〈生徒の活躍〉

【第74回東京都公立学校美術展覧会】

- ・国語科（書写）2年：〇〇 1年：〇〇
- ・美術科 1年：〇〇 2年：〇〇
- ・技術科 1年：〇〇
- ・家庭科 2年：〇〇・〇〇

【第65回 東京都中学校書き初め紙上展】

- 準特選 1年：〇〇
- 金賞 3年：〇〇・〇〇・〇〇
2年：〇〇・〇〇・〇〇
1年：〇〇・〇〇

【東京都中学校体育優良生徒】

3年：〇〇・〇〇

【北区保健優良生徒】

3年：〇〇・〇〇

【東京都優良卒業生】

3年：〇〇・〇〇

【北区子どもかがやき顕彰 北区はばたき賞】

2年：〇〇

第51回全国中学校レスリング選手権大会

男子グレコローマン48Kg級 第3位

2年：〇〇 1年：〇〇

第70回全日本養神館合気道 総合演武大会

ファミリー演武 優秀演武賞

令和7年度 第77回 卒業式 校長式辞『春を迎える桜のように歩みだす君たちへ』

校庭の桜も膨らみ始め、春の訪れを感じるこの佳き日に、第77回卒業式を挙げるにあたり、公私ともにご多用の中、北区教育委員会委員 川染 誉様をはじめ、多数のご来賓並びに保護者の皆さま方にご臨席賜りましたこと、卒業生・教職員を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。ありがとうございます。



保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

大きなランドセルを背負い、小学校に通い始めてから早9年。心も体もたくましく成長し、自信に満ち溢れた我が子の姿に、15年間の子育てを振り返り、感慨もひとしおと拝察いたします。

この3年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきましたことに、この場をお借りして、改めて、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

これからも飛鳥中学校の良き理解者として、変わらぬご支援をいただければ幸いに存じます。

ご来賓の皆様には、卒業生の晴れの日を共にお祝いくださり、誠にありがとうございます。

ご覧のとおり、本校を巣立っていく109名の卒業生は、一人ひとり大変立派に成長いたしました。

これからは地域社会で、また国際人として、さらなる活躍が期待される生徒たちでございます。今まで同様、皆さま方の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、3年生のみなさん、改めて卒業おめでとう。今、どんな気持ちですか？

「卒業」という実感は、まだ湧かないかもしれませんが、仲間が卒業証書を受け取る姿に、飛鳥中で過ごした日々を振り返り、さまざまな出来事が蘇ったことでしょう。

この3年間、「熱い学年」、「暖かい学年」そして、3年生では「桜守」という目標を胸に、それぞれの色を重ね、「自分たちらしさ」を鮮やかに描いてきました。

行事のたびに、頼もしいリーダーが現れ、そのリーダーを支えようと、互いの思いを語り、励まし合い、共に成長していく姿は、まさに自分自身と仲間の「夢の桜守」でした。

「最高の修学旅行」をスローガンに掲げ、何度も練り直した計画表を手に、見知らぬ土地で、「あっちじゃない。こっちだよ。」と声を掛け合い、目的地を目指した奈良・京都での班活動。迷いながらも共に歩んだ時間の中で、「絆」という言葉の意味を実感したことでしょう。

3年生としての責任と誇りを胸に、仲間のため、応援してくれる人のため、そして、本当の1番とは何かを考え、取り組んだ運動会。雨天延期という状況にも、互いに前向きに声を掛け合い、全力で駆け抜けたその姿は、見る人の心を動かししました。

飛鳥中での最後の学校行事・学芸発表会では、「どうすれば心を合わせられるのか」を真剣に考え、何度も意見を重ねてきました。時にぶつかり合いながらも、仲間を信じ、自分たちにとって1番の歌声を届けました。舞台上立つ3年生の姿には、「後輩たちにバトンを渡す」という熱い思いがあふれ、その姿は、後輩たちのさらなる挑戦を後押しするものとなりました。

また、進路選択という大きな壁と向き合い、挫けそうになったとき、心が折れそうになった日もあったはず。それでも諦めずに、前へ進めたのは、いつもそばにいた友の存在が大きかったことでしょう。

その姿は、厳しい冬の寒さに耐えながら、春に向けて力を蓄える桜の木そのものでした。

「桜守」とは、桜の木を守り、育て、その命を次の世代へとつないでいく人のことです。十六代、桜守の佐野藤右衛門さんは、桜の木一本一本に寄り添い、「どうしたら美しい花を咲かせられるのか。」「今、この木は、何を求めているのか」と、その声なき声に耳を傾け、対話を重ねてきたと言います。

この「対話を重ねる」という姿勢は、私たち人と人との関わりの中でも、決して失ってはいけない大切なものです。「対話」とは、相手を言い負かすことでも、異なる考えを排除することでもありません。互いの違いを受け止め、考え方や視野を広げ、より良い答えを共に創り出していく営みです。

君たちは、この3年間で、相手の声に耳を傾ける力、自分の考えを自分の言葉で伝える勇気、そして、仲間と共に新たな答えを見つけ、前へ進む力を高めてきました。

これから迎える社会は、変化が激しく、予測困難な時代と言われる。だからこそ、誰かが用意した正解を探すだけではなく、自ら問いを立て、考え抜く力が何より求められます。異なる意見や、立場の違う人たちと、対話を重ね、新しい価値を生み出していく姿勢こそが、未来を切り拓き、社会を支える原動力となります。

4月から始まるそれぞれの道では、思いどおりにいかないことや、迷い・不安に揺れる日もあるでしょう。しかし、その時こそ、飛鳥中で育んできた「対話の力」を思い出してください。

桜は、地中に広げた根の分だけ、空へと枝を伸ばし、やがて美しい花を咲かせると言います。相手の声に真摯に耳を傾けることは、自分自身の心の根を広げることにつながります。そして、自分の思いを言葉にして、誠実に伝えることは、その根を太く、強くしていきます。

この「対話の力」という根を、これからも大切に育て、守り続けてください。

やがて、その根は、あなたたちの進む道を力強く支え、人生を豊かに彩ってくれるはず。卒業生一人ひとりの歩みが、それぞれの場所で美しい花となり、咲き誇ることを願い、式辞といたします。

令和8年3月19日

東京都北区立飛鳥中学校長 高田 勝喜

在校生 送る言葉 『春風に乗せて届ける感謝とエール ～先輩方が残してくれた想い～』

春の訪れとともに、つばめが新しい空へと飛び立つ季節となりました。この良き日にご卒業を迎えられた3年生の皆様、おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今、皆様はこの飛鳥中学校での三年間の日々をどのように思い返しているのでしょうか。私たちが先輩方と関わってきたこの2年間で、先輩方は私たちに「飛鳥中生としての姿勢」を教えてくださいました。

入学して間もないころ、新しい環境に戸惑っている私たちに、温かい言葉をかけ、相談に乗ってくださった先輩方。部活動では、さりげないアドバイスや、自分のことのように一緒に喜んでくれた姿が、今でも印象に残っています。委員会活動では、どんな状況でも話し合いの中心にいてくださいましたね。

私たちは、そんな先輩方の姿から、自分の意見をもつことや、相手の話をよく聞いて、よりよい結論へ導くことの大切さを教わりました。

澄み渡る空のもと、クラスの色を一つにした運動会。実行委員長の選手宣誓を合図に、運動会の幕が開きました。どの種目も全力で競い合い、校庭いっぱいに笑顔と応援が満ち溢れていました。「本気は楽しい」「全力はカッコいい」。全員が同じ目標に向かって切磋琢磨している3年生は、私たちの憧れとなりました。

仲間との絆も深まった秋。3年生にとって最後の学校行事となった学芸発表会。

一人ひとりの個性を大切に、互いに認め合うこと、その個性を輝かせるために一人ひとりを支える影の仕事もまた、大切な役割だということ、私たちは改めて実感しました。

体育館いっぱいに響く「手紙」「YELL」「証」。歌詞の一つ一つに思いがこめられた歌声。私たち後輩へと思いをつなぎ、一丸となって歌う姿や、3年生の深い絆は、私たちの目標です。

先輩方が紡いでこられたこの飛鳥中のよき風景を、これからは私たち在校生が受け継ぎ、よりよい学校にするために全力を注いでいくことを約束します。

小さな太陽がいくつも学校を照らしている。どこもかしこも活気であふれる3年生の廊下。たくさんの思い出で彩られた教室。どれも、先輩方にとって大切な宝物です。どうかこの飛鳥中学校で過ごした日々を忘れず、希望と夢を胸に、一人ひとりが選んだ道をまっすぐに歩いていってください。

時計の針は、止まることなく静かに進み続けます。3年前にこの学校の門をくぐった先輩方の時間も、気づけば今日という節目の日へと進んできました。皆さんがこの学校で刻んできた一つ一つの時間も、きっとこれからの未来を支える大切な一秒一秒になると思います。

3年生の皆さん。皆さんが刻んでいく未来の針が、希望に満ちた時を指し続けることを、在校生一同、心よりお祈りし、送る言葉といたします。

令和8年3月19日

在校生代表 ○○○○



卒業生 別れの言葉 「思い出を力に、答えのない問いへ挑む」

司会：○○ 3年前、私たちは飛鳥中学校の正門をくぐりました。

「107回」。皆さんはこの数字が何かわかりますか？これは、私達が3年間で行ってきた学年集会の数です。私たちは、たくさんの学年集会をおこない、いつもみんなで想いを共有してきました。『私は、学年のみんなで集まることが大好きでした。みんなで集まると、居心地がよく安心しました。それでは、学年みんなの想いを込めた別れの言葉です。』

1年：○○ 「何事にも一生懸命に取り組む熱い学年」としてスタートした1年生。

大縄がうまく跳べず、みんなで話し合った運動会。仲間と協力し合う喜びを感じると共に、準備から片付けまで、生徒がおこなう飛鳥中の伝統に感動しました。日焼けの痛みも泳ぎの疲れも忘れるくらい、笑いあった岩井臨海学園。楽しんであっと言う間に自由時間が終わったことも、夕食を食べ過ぎたことも、大切な思い出です。

『僕にとって1年生の毎日は何をやるにもワクワク、ドキドキの連続で、あっと言う間に過ぎていきました。たくさん怒られたり、たくさん迷惑をかけてしまったけれど、飛鳥中に入って本当に良かったです。』

2年：○○ 「何事にも心を入める暖かい学年」として進級した2年生。

先輩となることへの不安。運動会、職場体験、EC 那須と忙しい毎日。

転機となったのは、学芸発表会での3年生の姿でした。歌声、表情、姿勢、本気の涙。目には見えないけれど確かな絆を感じました。

「自分たちの力で学年を盛り上げたい！」そんな思いを形にした2年生の後半。学年のほとんどが行事の実行委員となり、手作りで行事をつくりあげました。マナー劇、個性あふれる手書きの葉や掲示物、ダンスリーダーがつくってくれたダンス。思い出すだけで心が暖かくなります。

『いろいろな行事もありましたが、ちょっとした下らないことでも盛り上がる、何気ない日常がとにかく楽しかったです。みんなで笑い合う日々がずっと続くと思っていました。』



D組：〇〇 私は、新しく開設された、D組の第1期生として入学しました。

1年目は、模範となる先輩がおらず、人数も少なく、なにをやるにも先生方と一緒に、手探りで活動していました。

2年生になり、後輩ができました。「先輩として頑張ろう！」と張り切っていましたが、何でもすぐにできてしまう後輩たちに、気おくれしてしまうこともありました。

でも、3年生になって、学年に関係なく、皆で笑い合えることが増えました。学芸発表会やスポーツ交流会では、全員で円陣を組んで団結しました。たくさんの個性が集まるクラスでしたが、それぞれの違いを認め合い、できないことがあっても優しく待ってくれる。そんなクラスは、私にとって、とても安心できる場所になりました。

後輩のみなさん。一緒に作ってきたD組のバトンを、君たちに託します。これからのD組が、飛鳥中の伝統の中で、もっともっと成長していけるよう、よろしくお願いします。

3年：〇〇 自分に厳しく、人に優しく。自分と仲間に寄りそう「桜守」としての3年生。

手作り行事の集大成！修学旅行。手書きの葉も、マナー劇で爆笑した思い出も、私の宝物です。全く知らない街で迷子になりましたが、こんなにもずっと笑顔で、早く過ぎた3日間は初めてでした。

悔し涙も嬉し涙も共有できた運動会。ダンスの前に全員で組んだ最幸の円陣。表彰式の後に全員で写真を撮った時、勝ち負けを越えてみんなでつかんだ大切なものが私には見えました。

想いを咲かせた学芸発表会。本気だからこそぶつかり合った合唱練習、クラス紹介でこぼれた笑顔、舞台から見た涙でにじんだ景色。みんなで肩を組んで校歌を歌いながら、この時間が永遠に続いてほしいと本気で感じました。

そして、高校受験。一番勉強と向き合った一年間。比べてはいけなさとわかっていても、ついつい隣を見ては落ち込む日々。

『私にとって、人生で一番悩んだ1年間でした。でも、それ以上に、一番笑って、一番達成感を感じた1年間でもありました。みんなと受験を乗り越えられて、本当に嬉しかった。ありがとう！』

来週の予定：〇〇 これからの予定を話します。

月曜日、もう飛鳥中学校に登校しません。火曜日水曜日も。もう二度と飛鳥中学校で生活することはできません。これからの予定も進む道も全員バラバラです。みんなで心を込めて作った掲示物も剥がされ、私達が過ごした形跡は、この飛鳥中学校から消えてしまいます。でも、私の心の中には、決して消えないものがあります。

それは、熱い思い。暖かい思いやり。人のために進んで裏方に回ること。困っている人に寄り添うこと。感謝の気持ちを伝えること。頑張って準備してくれた人のために思いっきり楽しむこと。みんなの笑顔のために真剣にふざけること。そして、みんなとの大切な思い出です！

『私はこれからどんなに辛いことがあっても、みんなとの思い出を胸に未来に進んでいきます。みんなもそれぞれの場所で、がんばろうね！』

今週の言葉：〇〇 最後に、すべての人に感謝を伝えます。

後輩たちへ。あなたたちが僕たちの背中を追い続けてくれたから、僕たちは前に進むことができました。この卒業式も後輩の皆さんが一生涯準備をしてくれ、私たちはただ参加すればいいように全てを整えてくれました。改めて後輩のみなさん、ありがとうございました。私たちにとって大切な大切なこの飛鳥中学校を、さらに感謝のあふれる、1番の学校にしてください。

主事さんへ。朝、僕たちが登校する前の、早い時間から掃除をしたり、僕たちが気付けないたくさんの仕事をしていていました。当たり前前に学校に通うことができたのは、いつの時も、学校を支えてくれた主事さん方がいたからです。ありがとうございました。

先生。普段から明るく授業や話をしてくれて、ときには厳しく叱ってくれて、ときには僕たちと一緒にふざけてくれて、何よりも、僕たちにいつも寄り添ってくれて、何があっても僕たちを見て、一緒に喜んでくれました。落ち込んだときには、「その経験はいつか強みになる」と励ましてくれました。本当にたくさんのことを学ばせていただきました。ありがとうございました！

お父さん、お母さん、家族のみんな。僕たちは今日で中学校を卒業します。今までたくさんの迷惑をかけてごめんなさい。その度に真剣に叱ってくれてありがとう。時には言うてはいけなさを言うてしまったかもしれませんが、それでもずっと味方でいてくれて、ありがとう。いつでも僕たちを大事に考え、大変な時期に落ち込んだときには支えてくれてありがとう。

どれだけ大きくなって成長しても、お父さん、お母さん、家族のみんなへの大好きな気持ちを忘れることはありません。これからも成長していく僕たちを見ていてください。

いよいよ別れの時です。できることなら、過去に戻って、もう少しだけみんなと学校生活を送っていたかった。もう一度だけ、別れなんて気にせずふざけ合っていたかった。『3年生のみんな。一緒に笑ってくれてありがとう。真剣にぶつかってくれてありがとう。そして、どんな時も一緒にいてくれてありがとう。みんなのおかげでこんなにも最高の3年間になりました。』

みんなと繋いだ熱くて暖かい絆を胸に、これからの人生も、答えのない問いに立ち向かっていこう。』

今日まで私たちを導いてくださったすべての方々に、心から感謝いたします。私たち卒業生一同の旅立ちの決意と、感謝の気持ちを込めて、別れの言葉とさせていただきます。

令和8年3月19日

卒業生代表 学級委員一同